

ポーランド アダム・ミツキエヴィチ大学 1999年度機関報告

関 理世／深井 千枝

1. 機関概要

所属 新文献学部 東洋・バルト学科 日本学専攻
 設立 1987年
 制度 5年制修士課程 隔年募集 10月開講
 入試 入試資格：高校卒業試験合格者
 試験：外国語2つ（筆記・口頭）／ポーランド語（口頭）／面接
 代表者 アルフレッド・F・マイエヴィチ教授
 教員数 ポーランド人5名／日本人5名
 学生数 2000年6月現在
 1年生 15名／3年生 9名／
 5年生 9名（うち4名は1999年10月から1年間日本留学中）

2. 留学状況（1999年度）

文部省日本語・日本文化研究留学生 4名／文部省研究生 2名

3. 進路状況

留学中、日本の大学でのポーランド語講師、日系企業、国内の大学の講師、通訳・翻訳業、国内企業、欧州にある企業

4. 学生の興味ある分野

オノマトペ、敬語、文学作品の翻訳・作家論、明治～現代の日本歴史、茶道、能、演劇、現代映画、漫画、民謡、ファッションとデザイン、日本の模様、やくざ、女性学、社会学

5. 履修科目一覧表（年時間数 1時間=45分）

学年	科目名	年時数	学年	科目名	年時数
1 学年	日本語演習	390	2 学年	日本語演習	390
	漢字	120		漢字	150
	日本語記述文法	30		日本語記述文法	30
	日本文学史	15		日本文学史	60
	日本事情	30		日本史	60
	言語学入門	30		情報処理入門	30
	日本史	15		翻訳入門	30
	論理学	30		印・欧語	120
	現代哲学	60		第2 東洋語	120
	印・欧語	120		体育	60
	第2 東洋語	15			
	ロシア語	60			
	体育	60			

3 学年	日本語演習	360	4 学年	日本語演習	360
	漢字	120		漢字	90
	日本語古典文法	60		翻訳	120
	翻訳	90		卒論ゼミ	60
	日本文学・文化史	30		特別講義	60
	卒論ゼミ	30		印・欧語	120
	特別講義	30		第2 東洋語	120
	印・欧語	120			
	第2 東洋語	120			
5 年生	日本語演習	180			
	漢字	60			
	翻訳	45			
	卒論ゼミ	60			
	特別講義	60			
	印・欧語	30			
	第2 東洋語	30			

6. 教材 (1998-1999 年度)

- 1 学年 『初級日本語』 東京外国語大学
『わくわく文法リスニング』 凡人社
- 2 学年 『総合日本語・初級から中級へ』 『総合日本語中級』 凡人社
『初級日本語問題集 読解 20 のテーマ』 凡人社
『ニュースで学ぶ日本語』 凡人社
『表現テーマ別日本語作文の方法』 『日本語の書き方ハンドブック』
『実践にほんごの作文』 凡人社：を参考にした自作教材
『ロールプレイで学ぶ日本語』 凡人社：を参考にした自作教材
『日本語の書き方』 本学作成 『漢字ドリル』 同左
- 3 学年 『中級からの日本語 読解中心』 新典社
『完全マスター 日本語能力試験文法問題対策』 スリーエーネットワーク
『日本語の書き方』 本学作成 『Intermediate Kanji Book』 凡人社
『12 人の優しい日本人』 ビデオ
- 4 学年 『過渡期の「日本」を考える』 凡人社
『どんな時どう使う日本語文型 500』 アルク
『日本語能力試験 1・2 級問題集』 凡人社
- 5 学年 自作教材、ビデオ、インターネットで検索した資料

7. 授業内容 (1999 年度)

1 学年

日本語演習

文型導入

変形練習・応答練習・完成練習などをコーラスで
モデル会話・絵カードなどで状況を明確に伝え、口頭や板書したキューでの口頭練習など
耳と口で慣れるように

ドリル練習

自作教材 (難易度を段階的に、話題はポ・日の身近な物、絵を書き添えて)

聴解

聴解用教科書を使用した聞き取り練習後、会話練習

総合活動

インフォrmーション・ギャップを使った活動

既習文型を使ったインタビュー活動、ペアワーク、ゲーム、クイズなど

まとめ

教科書本文の暗記、発音・イントネーション、既習文型・語彙の復習とそれをもとにした作文
2課ごとに到達度確認のための試験

漢字

既習漢字のテストと復習、新出漢字と熟語の導入

(以下、各学年とも同じ)

3 学年

日本語演習

読解

教科書に関する話題での会話、音読、設問の答え合わせ

語句解説、教科書中の慣用句・文型の解説、応用練習

小説・エッセイなどから自作した教材と設問

吉本ばなな『キッチン』、星新一『殺し屋ですよ』

黒柳徹子『窓ぎわのトットちゃん』、山田洋次他『男はつらいよ』他

会話

日本留学の際の生活情報について情報収集

発表・質疑応答、日常生活のための会話の練習

聴解・作文の授業と合同で日本人教師のペアで、3技能を総合した授業

『12人の優しい日本人』のビデオ鑑賞、登場人物の性格分析の発表と討論

「日本人らしさ」についての討論

日本とポーランドの、裁判制度と近年の有名な刑事裁判について発表・討論

聴解・作文

作文技術の講義、作文教材としてのビデオの歌舞伎鑑賞

くだけた日常会話聴き取りのための映画ビデオ

文法

文部省留学試験に的を絞った文法の復習

5 学年

日本語演習

ディベート

インターネットで収集した資料に基づく討論

「国旗・国歌法」「偏差値」「原発臨界事故」「在日外国人の参政権」

日本のテレビニュースの聴解練習と文型の復習

講義と発表

教師による日本事情の講義

「大学生の生活と入試制度」「横尾忠則のポスター」

学生の研究発表

「竹島問題」「抜歯の習慣」「アイヌの音楽」「能」「千利休の七則」「接尾語」他

ビデオ鑑賞

「狂言 枕物狂」「能 道成寺」「文楽 心中天網島」「Love Letter」「男はつらいよ」

「水戸黄門」他

8. 日本語をめぐる現状と今後の展望

ポーランドでは、現在、3つの総合大学に日本学専攻コースが設けられているが、その受験者数は年々増えてきており、競争率も高くなっている。この専攻コースの他に選択コース、全国各地の高校や市民講座でも日本語が学ばれている。これらの機関に現在9名の青年海外協力隊員が派遣されており、日本語指導・文化紹介をおこなっている。

このような日本語学習熱の高まりの背景として、文化・情報面では、従来の武道への関心に加えて、日本の美術・ポスター展や文化週間の開催、近・現代文学の翻訳や漫画雑誌など日本社会に関する書籍の出版、日本社会・伝統文化・日本のアニメのテレビ番組の放映など、より多彩な日本の情報が届いていることが挙げられる。

経済的な動向としては、かつては日本企業を代表するのは貿易商社であったが、近年は日系・合弁の製造工場の設立が相次いでいる。それに伴い、専攻コース卒業の学生の求人も増え、企業側から採用のために大学へ出向いて面接する状況にまでなってきた。職種も秘書職や業務一般の翻訳・通訳に加え、日本人技術者とポーランド人労働者の間に立って、日本で日本語教育を含む技術研修の付き添いや、企業側の代弁者の役割を期待され始めている。従って、授業においても、研究者育成に重きを置く従来の傾向に固執せず、日本語を駆使して働く企業人を育てる視点が必要となるだろう。